

浜口陽三銅版画展

2025年初夏の展覧会 ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

会期 4.12 sat. → 6.15 sun.

休館日 月曜日(ただし5/5は開館)

開館時間 11:00~17:00(土日祝は10:00~)、最終入館16:30

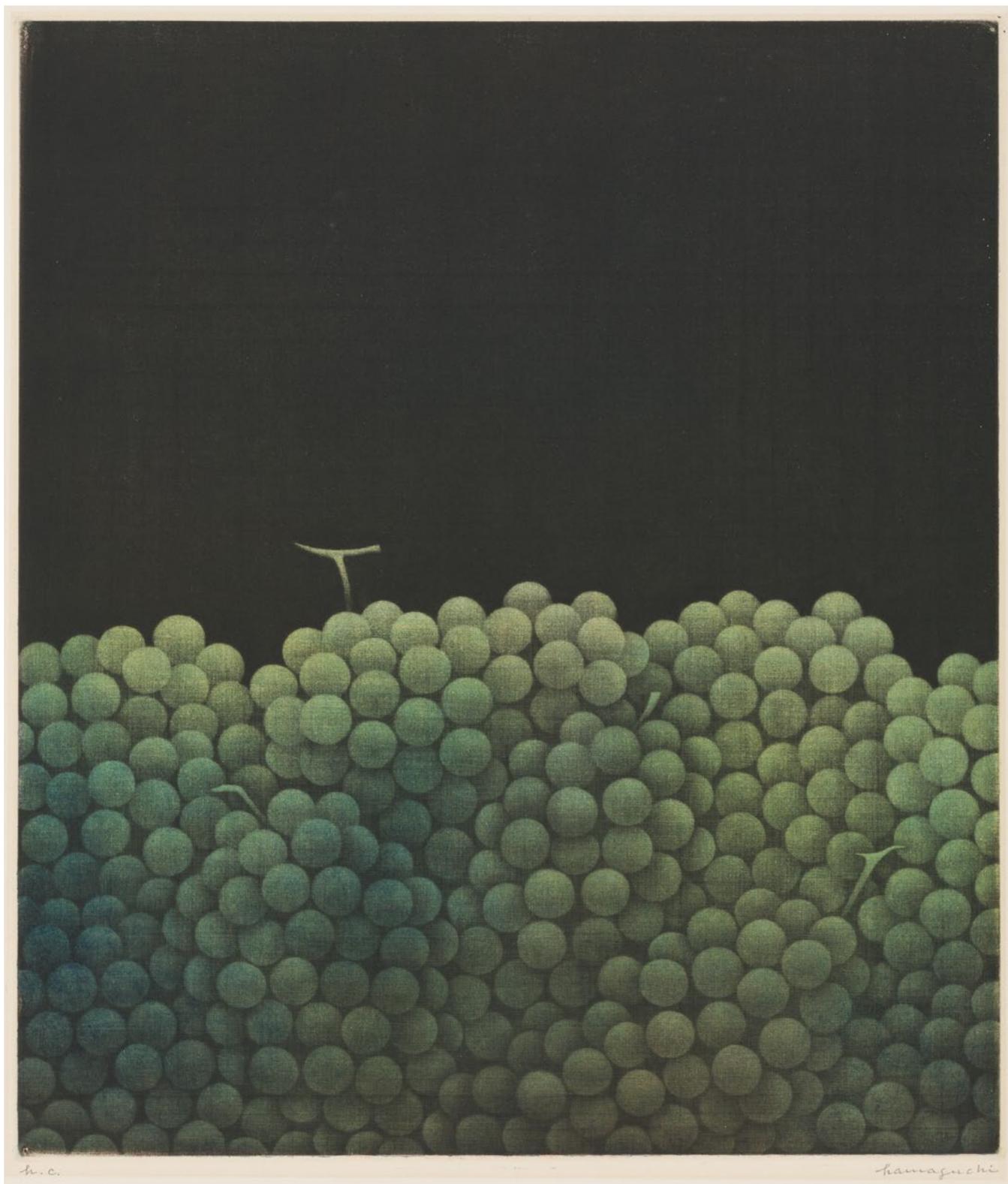
入館料 大人600円/大学・高校生400円/中学生以下無料

ナイトミュージアム等を含む最新のスケジュールはホームページ上に記載します▶

美術館HP



目をこらすと、ほら



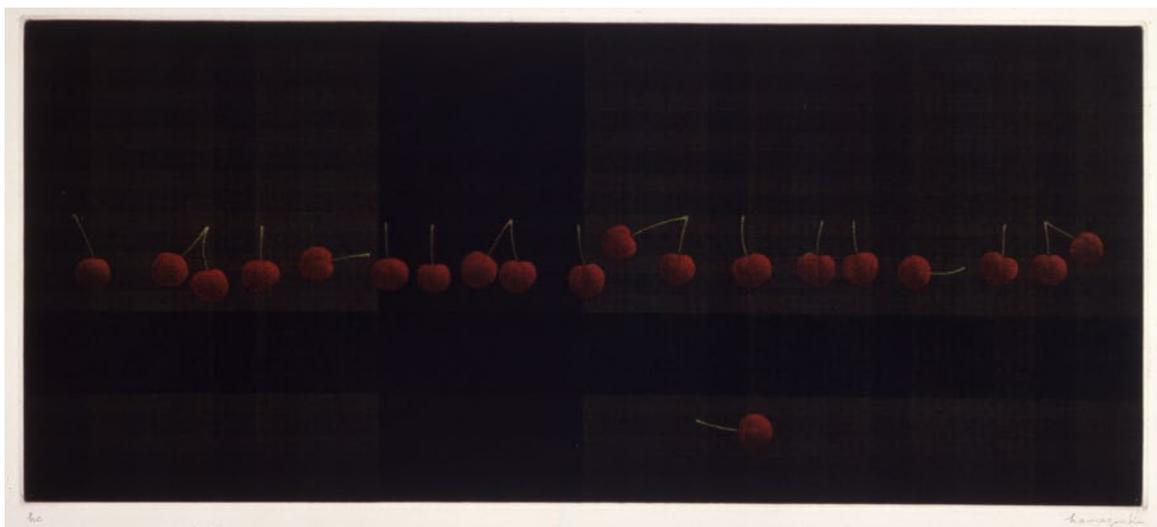
《暗い背景のぶどう》 Grapes in Darkness 1961年 color mezzotint 34.3×29.5cm



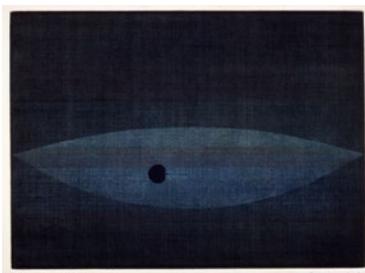
Musée
Hamaguchi
Yozo:
Yamasa
Collection

HAMAGUCHI YOZO

目をこらすと、ほら——そこに広がる静かな世界が見えてきます。



《19と1つのさくらんぼ》 Nineteen Cherries and One
1965年 color mezzotint 23.4×53.8cm



《黒いさくらんぼ》 Black Cherry
1960年 color mezzotint 19.4×26.6cm



《あざみ》 Artichoke 1957年 mezzotint 29.5×39.5cm



《ツーパーズ》 Two Pairs
1976年 color mezzotint 3.6×5.6cm

浜口陽三(1909-2000)は、20世紀を代表する銅版画家の1人です。
1950年頃から本格的に銅版画を追求し、カラーメゾチントという新たな技法を開拓しました。
その深みのある黒と繊細な色彩は版を刷り重ねることで作られ、絵の中の世界を無限に広げてゆきます。
暗闇のなかに、そっと浮かび上がる果実や昆虫たち。輪郭はやわらかく、静かな気配を宿しています。
本展では《暗い背景のぶどう》をはじめ、浜口陽三の銅版画を約50点展示します。

小コーナーでは、近年見つかった小さな原版(ドライポイント)6枚を、再現した刷りと共に初公開します。
制作年代不明の、実験的な試作です。メゾチントと違う浜口陽三の一面をご鑑賞ください。



版画工房エディション・ワークス 加山智章氏による刷り再現
制作年代不明 ドライポイント、雁皮紙 7.6×6.2cm

関連イベント

イベント1▷ 銅版画メゾチント体験教室

一回の実習で製版から刷りまで行い、ハガキサイズの作品を完成させます。
初めてでも無理なくご参加いただける、初心者向けの教室です。

- 【講師】 江本創(アーティスト)
- 【日時】 5/18(日)【午前の部】10:00-13:00【午後の部】14:00-17:00
- 【参加費】 2,000円+入館料 【定員】 各回10名
- 【持ち物】 12×7.5cmの下絵、汚れてもよい服装またはエプロン
- 【お申込】 4/12(土)12:00より電話にて先着受付



イベント2▷ トーンを刷る銅版画ワークショップ

2枚のトーンの版を刷り重ねることで、多彩な色調を作るワークショップです。

- 【講師】 関貴子(版画家)
- 【日時】 4/20(日)、5/11(日)、6/8(日)
①13:30-14:30 ②15:30-16:30
- 【参加費】 600円+入館料 【定員】 各回4名
- 【お申込】 4/12(土)12:00より電話にて先着受付



ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-35-7
【Tel】 03-3665-0251 【HP】 <https://www.yamasa.com/musee/>

【アクセス】 東京メトロ半蔵門線[水天宮前]3番出口そば
東京メトロ日比谷線[人形町]A2出口徒歩8分
都営浅草線[人形町]A5出口徒歩10分



当館はぐるっとパスに参加しています。

ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

